

名胡桃の城

令和7年
遊人舎

流しそうめん

竹を流れるそうめんに、涼やかな風を感じながら、流しそうめんを楽しみました。

「取るのが意外と難しいねー!」「人生で初めて体験したわ!」利用者さまも笑顔いっぱいです。

ひんやりとしたそうめんは暑い日でも食が進み、皆さまお腹も心も満たされた様子でした。

夏の風物詩を、みんなで楽しく過ごすひとときとなりました。



● お知らせ ● 8月のイベント



うどん作り



納涼会

筍づくし昼食

立派な真竹をたくさんいただきました。

「すごい量だねー! ありがとうございます」

「昔はよく掘りに行ったよ」と、会話を楽しみながら皮を剥きました。あつという間に準備完了です。

さっそく筍ごはんとは煮物を作って、お昼ごはんに食べました。

「初物、嬉しいわ」と、旬の味を皆さんで楽しみました。



小濱道博先生に訊く

2040年に向けた検討会の意見が纏まりました。今後15年間で、85歳以上人口の急増と生産年齢人口の減少が予測される中、介護業界は大きな転換期を迎えます。この未来を切り拓くには、まず地域特性に応じた柔軟なサービス提供が不可欠です。中山間・人口減少地域では、サービスの維持に向けた多機能化や広域連携、人員配置基準の弾力化が求められ、大都市部ではICTやAIの活用による効率的なサービス基盤整備が重要となります。次に、人材確保と生産性・経営強化は最大の課題です。ケアマネジャーおよび職員の処遇改善はもちろん、テクノロジー導入やタスクシフト/シェアで業務効率化と職場環境改善を推進し、同時に事業者グループなどによる事業者間の協働・連携で経営基盤を強化することが不可欠です。そして、介護、障害福祉、保育といった分野を超えた「地域共生社会」の実現が、持続可能なサービス提供と地方創生に繋がります。行政や多職種との連携を深め、地域全体で支え合う体制を築くことが重要になるでしょう。また、介護業界は、外国人材、LGBTQ+利用者・職員への対応、高齢者や障害者、昭和気質など、多様な人が共生するダイバーシティであることの認識と受入も重要です。

小濱道博

小濱介護経営事務所 代表
NKK 一般社団法人
日本介護経営研究協会 専務理事
C-SR 一般社団法人
介護経営研究会 専務理事
一般社団法人介護事業協議会 理事
C-MAS 介護事業経営研究会 顧問
ほか



昼食は、星降る天の川をイメージした彩り素麺でした。

「色鮮やかで、食べるのがもったいないね。」
「さっぱりしていて、この時期にぴったり!」と皆さん喜んでくださいました。

夏の始まりに、涼を感じるひと皿となりました。



今月の
BESTショット

お裁縫で可愛い
フクロウ完成

今の平和な暮らしは、数え切れない犠牲の上に成り立っています。そのことを決して忘れてはなりません。利用者様からの貴重なお話や、歴史書からの学びを通じ、私は「今を大切に生きること」「先人が築いてくださった平和への感謝を次世代に伝えること」の重みを強く感じています。平和の尊さと歴史の教訓を心に刻み、日々の仕事に生かしていきたいと思っています。

室橋正晃



先日、猪瀬直樹先生より新刊『戦争シミュレーション 未来戦記の精神史』をサイン入りでご恵贈いただきました。この本は、戦争を単なる過去の出来事としてのみ捉えるのではなく、未来への教訓として再考する重要性を教えてくださいました。戦争は突発的に起こるものではなく、政治的・社会的背景、そして人々の想像力の欠如が連鎖していく結果として生じるという視点に、深く考えさせられました。

令和7年は、大東亜戦争の終結から80年という節目の年を迎えます。デイサービスの日常において、私は何度も「戦争は過去の出来事ではない」と教えられてきました。利用者様から直接伺う体験談は、戦争の悲惨さと平和の尊さを強く感じさせるものばかりです。戦地に赴かれた方、シベリア抑留を経験された方、軍需工場で働かれた方、家族を戦地に送り出された方。その一つひとつの記憶は生々しく、書物だけでは知り得ない「生きた歴史」そのものです。しかし、戦争を直接知る世代の高齢化により、こういった声を聞く機会は年々減少しています。

社長
コラム

戦後
80年

体験見学お気軽にどうぞ!

名胡桃の城(通所介護・通所型サービス)

〒379-1314 群馬県利根郡みなかみ町下津1962-3

TEL 0278-25-3722 FAX 0278-25-3881 事業所番号:1072700873

ホームページ yu-jin-sha.com



Instagram毎週更新しています。NAGURUMINOSHIRO 遊人舎ホームページ

